



部活動や学校生活の健康・安全管理強化を

田中 紗弥佳 議員

問 部活動中の救急搬送や熱中症の実情はどうか。また、どのような運用、対策をしているか。

答 令和7年度の部活動時の救急搬送は中学校5件、国分中央高校2件、熱中症は中学校1件だった。健康管理および設備等の点検は各マニュアルに基づいて実施している。県の「学校における熱中症対策ガイドライン」に基づき、暑さ指数計が31を超えた場合は活動を中止している。また、定期的な水分補強や休息の確保等を指示している。



問 養護教諭の不在時対応はどうか。また心の健康支援、負担軽減に向け



大規模太陽光発電所周辺の災害対策の強化を

宮内 博 議員

問 志学館大学跡地の大規模太陽光発電所建設後、既設調整池の一部が崩壊し、市道木之房く上野線の路肩も崩落して、市民生活は多大な影響を受けている。事業者は、排水路の設計ミスを認めている。市との協定書に基づき、路肩崩落改修に要する費用などの負担を求めるべきではないか。

答 災害の原因は上野地区からの排水や路面水、太陽光発電所からの出水が集中し、路肩が崩落したと考える。事業者は、発電所内の排水抑制や排水路の改修を検討している。引き続き、発電所周辺に被害を及ぼさない災害対策を要請する。



妙見崎橋の改修は

塩月 大志郎 議員

問 妙見温泉にある妙見崎橋は、昨年の豪雨災害の際には流木等が堆積した。今後そのようなリスクに備え橋梁の改修等を検討してはどうか。

答 改修に当たっては、河川管理者である鹿児島県との協議や、周辺の温泉施設への影響に配慮しながら事業実施の可能性について検討していく。



令和7年8月の妙見崎橋の様子



歴史・文化を未来へつなぐ拠点づくり

渡邊 圭章 議員

問 歴史文化の継承と教育の連携について、郷土教育やシビックプライドの醸成において、市として歴史や文化をどのように活用していくか。

答 シビックプライドとは、市民一人ひとりがまちの一員としての意識を持ち、自発的にまちづくりに参加することを大切にしている。本市では、シビックプライドのきっかけづくりとして、歴史講座や史跡巡りなど歴史や文化を活用した啓発事業や、小中学校での郷土教育に取り組んでいる。



①隼人歴史民俗資料館
②国分郷土館
③霧島歴史民俗資料館
④横川郷土館
⑤隼人塚史跡館



児童生徒の命を守る熱中症対策の強化推進を

久保 史睦 議員

問 学校体育館への空調設置について協議内容と今後の計画はどうか。

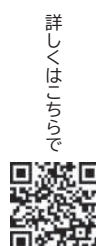
答 必要性が高く、交付金を活用した設置について協議した。補助要件の限定や教育環境に格差が生じる課題があり、現在見直しは立っていない。

問 猛暑対策は待ったなしの状況である。業務用スポットクーラーを導入できないか。

答 有効な手段と考える。空調設備の設置は経費等課題があるが、スポットクーラーについては今後検討する。



日よけ垂れ付き帽子



視覚障がい者が社会参加できる環境へ

山口 仁美 議員

問 同行援護は、障害者総合支援法に基づく自立支援給付（個別給付）だが、自治体によって標準時間に大きなばらつきがあることが課題とされる。「本市の標準時間は20時間と短く、改善してほしい」という当事者の声がある。標準時間内への利用抑制の促しや外出控え等の事例も見られるため、個別アセスメントによる申請ができることをしっかり周知すべきではないか。また「第8期障害者福祉計画」に当たり、標準時間を撤廃できないか。

答 支給量の上限に定めがなく、個別アセスメントを経て作成するサービス等利用計画案に基づき、支給量の標準を超え

